

## 第4章 おわりに

この研究では、中小機械工場における中高年技能者に、どのような教育訓練コースを準備したら良いか吟味した。そして我々が設計した中年期の教育訓練の構想がはたして向上訓練の受け手である企業、あるいはその企業で働く人々に賛同してもらえるか予備調査を行い受け入れられることを明らかにした。

このような、地域ニーズの調査を行い、地域企業から要望されている中年期の機械加工ベテラン者を対象とする「旋盤加工技能クリニック」という向上訓練コースを山梨技能開発センターと共同で開発し、3回の実践、評価、改善を行った。

この訓練コースの設計において特に留意したことは、第一に、技能診断と自主研修への結びつきを授業の流れとしてスムーズに設計すること。

第二に、生産現場のベテランは、教えることがうまくできないと言われている。そのために表現する能力、他者へ伝える能力等のコミュニケーション能力の強化を行い指導力の向上に重点をおいたこと。

第三に、成人学習の特性を生かすよう、受講者どうしの情報交流が十分にできる雰囲気や授業展開に工夫し、指導員の一方的な講義は極力少なくして受講者中心で授業が進められるようにとしたこと。

第四に、教材開発に当たって、教材開発思想を明確にして標準化し、コースを開設し実践する指導員が使いやすく、また改善の手を入れやすいよう教材開発の考え方を明らかにしたこと。

第五に、この向上訓練コースが、他の訓練施設へスムーズに普及されるよう、訓練コースをパッケージ化したことである。

実施したコースについて受講者がどのように受け止めたか、コース最終日の総括討議の中で述べられた感想は次のように要約できる。

- ①とらえなおしという意味で自信がついた。
- ②他人の発表を聞いて参考となり、得るものが多かった。
- ③自主研修の実験で良い結果が得られたので希望が出てきた。
- ④これから問題意識を持って仕事に取り組みたい。

⑤新入社員などに教えることが苦手だったが、他人に教える場合、加工工程表のすばらしいことを知って自信がついた。

また、受講させた企業側がどのような評価をしているか、企業インタビューの意見は次のように要約することができる。

- ①今回のように5人出てきて友人になるということは、それらの人が会社の中である程度選抜された人だと思えますので意味あると思えます。
- ②時を改めて同じメンバーでやってもらったら更に効果が上がると思えます。
- ③半年後、一年先にもう一度、補講のようなものがあれば良いと思えます。
- ④仕事のやり方も違って来ています。仕事に対する意気込みみたいなものがないか変わってきました。
- ⑤参加後は今までと同じ仕事をして、自分で目的意識を持ちながらやるようになりました。

このように受講者は、訓練コースに参加したことで満足な成果を得ることができ、自分自身が変わったようだとの喜びの感想を持っている。企業側も十分な成果を得ることができたと評価しており、この訓練コースが地域企業、受講者に満足して貰えることが再確認できた。

特にここで述べておきたいのは、訓練コース参加に関して、受講者及び企業が抱いているものの一つに、訓練コース目的にあるような技術的内容の他に、他の会社の従業員との交流を持ちたい、持たせたいという考え方があったことである。それは中小企業にとって自社の企業秘密を維持するというよりも、相互に得意とする分野での技術情報の交換を行い、相互繁栄の道を歩みたいとの考え方を持っていることが感じられたことである。

この向上訓練コース開発研究において、改善すべき点、あるいは研究したかったができなかった点も数多くあった。それは次のような事項であった。

- ①技能の裏づけとなる理論を自主的に学ぶことができる数多くの教材（CAI

やシミュレーション)を準備すること。

- ②診断結果に応じて、とらえなおしに必要な多数の自主研修テーマを用意すること。
- ③今回は受講1年後のフォローアップ調査を行ったが、さらに継続して、受講者の気持ちが受講を契機としてどのように変化が生じたかの確認調査を行うこと。
- ④共同研究施設以外の技能開発センターで今回開発した訓練コースを実践し、成果を確認すること。

これらは、実践する指導員どうしが改善案を持ち寄り、意見交換をしてより良い向上訓練コースとして完成させて行くことで達成できるだろう。

この他、企業調査で要望の高かった「フライス盤加工技能クリニック」コースの開設にも応えていく必要があるだろう。さらに、「旋盤加工技能クリニック」を構成している自主研修を独立させた向上訓練コース、例えば、日常作業の問題点を実験により解決する訓練コースが考えられる。また、共通の問題意識を持った受講者を集めて討議を行い、その中から問題解決の方向を導き出す訓練コースなども考えられる。

このパッケージを活用して、この「旋盤加工技能クリニック」コースが向上訓練を実施している訓練機関でひとつでも多く実践されることを念願してやまない。